

熱帯すり身 リスクのある供給

認証と評価
コラボレーション

2021年某月

2019年、認証と評価のコラボレーションは、熱帯すり身漁業の持続可能性パフォーマンスの分析を委託しました。熱帯魚からのすり身とすり身シーフードの生産 - 業界の展望は、世界中のすり身貿易に供給している熱帯漁業が直面している持続可能性の課題を包括的に示しています。認証と評価のコラボレーションは、この分析の開発におけるリーダーシップについて、Fish Matter Pty Ltd の Duncan Leadbitter、Future Seafood の Pascal Guennegues、および Jae Park Surimi School の Jae Park に特に感謝しています。

この文書は、すり身事業に関するレポートの主要な調査結果の概要を提供しています。特に明記されていない限り、引用と参照はレポートから引用されています。

熱帯すり身の定義

すり身は主に、千年近くの間シーフード料理に使用される底魚タンパク質成分です。現代の熱帯すり身市場は、年間 250 万トンの完成すり身シーフード（約 350 万メートルトンの全魚を使用）を生産しており、世界のすり身生産の 70% を占め、残りはポロック、ホワイティング、その他の冷水魚です。

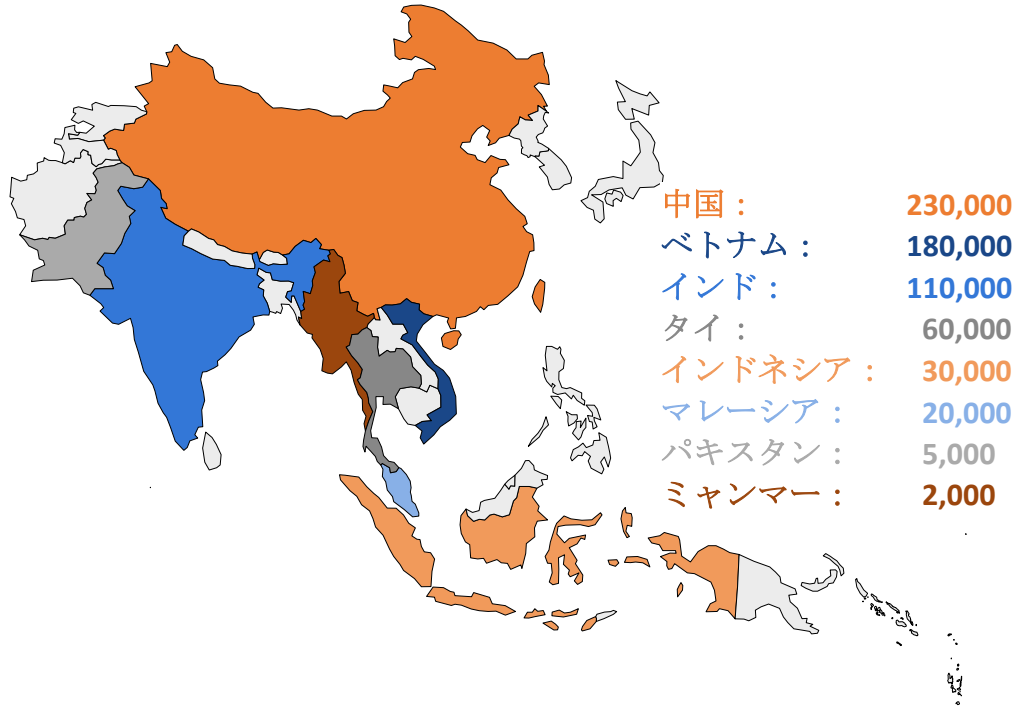
熱帯すり身の材料は、主に東南アジア、インド、パキスタン、中国の国々から調達されています。イトヨリダイ、エソ、ビッグアイスナッパー、ヒメジは熱帯のすり身生産の 90% 以上を占めていますが、取引には 120 種以上のソース種が含まれています。つみれやカニカマなどの熱帯すり身製品は、アジア、ヨーロッパ、ロシア、アメリカで広く消費されています。

主要国

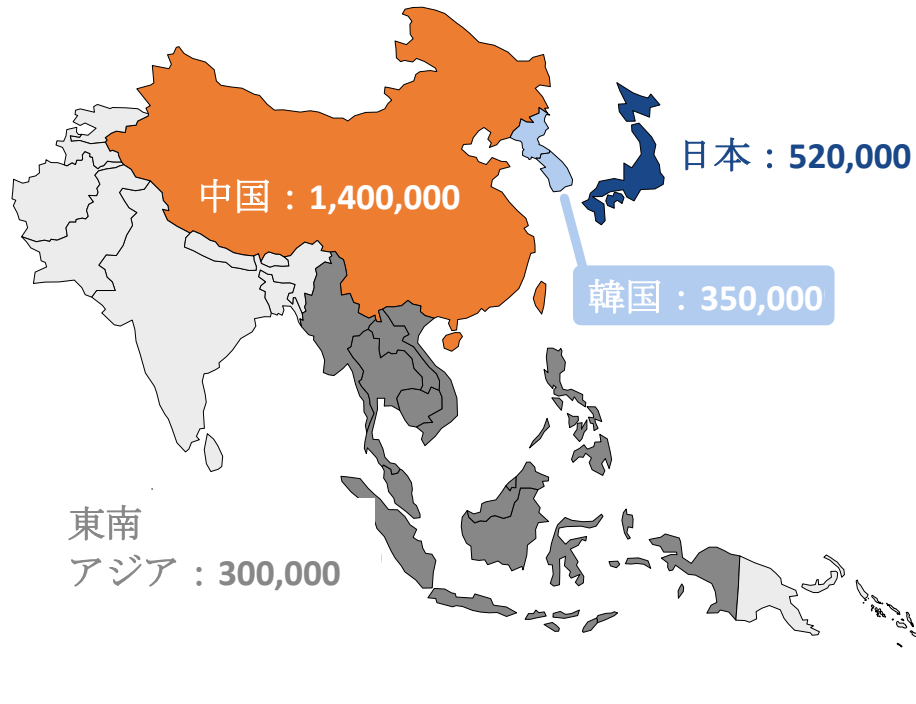
すり身は世界中で生産されていますが、熱帯すり身の生産、輸入、輸出はいくつかの主要国が主導しています。このセクションの一番上のグラフは、すり身（完成すり身シーフードの製造に使用される原材料）の製造を示しています。下のグラフは、小売店や外食産業で販売できる

完成すり身シーフード製品の生産を示しています。すべての量は推定値であり、特に明記されていない限り、このセクションの量はトン単位です。

熱帯すり身生産、主要国



完成熱帯すり身シーフード生産、主要国



真の持続可能性の脅威

北米で入手可能な冷水すり身は、主に海洋管理協議会の水産基準に認定された漁業から供給されています。コラボレーションの持続可能なシーフードデータツールのスケトウダラのスナップショットは、米国のメルルーサのスナップショットと同様に、これを示しています。熱帯すり身漁業は、モンレーベイ水族館のシーフードウォッチプログラムによる認証またはベストチョイスの評価を獲得する可能性はるかに低くなっています。2つの一般的な熱帯すり身成分、ツバメコノシロとイトヨリダイのデータツールスナップショットに示されているように、熱帯すり身漁業は通常、シーフードウォッチによって回避と評価されているか、さらに可能性が高いのですが、評価されていません。

少数の種を対象とする多くの熱帯漁業（エビなど）では、通常、対象外の魚の廃棄率は総漁獲量の70～90%に相当します。対照的に、すり身のために魚をとる人は、漁獲物のすべての構成要素に市場があるため、廃棄物がないことがよくあります。このような多種多様な漁業は、独特の管理上の課題を提示します。たとえば、これらの漁業は種ごとに異なる最大持続生産量（MSY）値に直面し、MSYの概念は一般に漁業生産性の観点からのみ定義されるため、捕食や他の種の相互作用は考慮されません。調査によると、単一種のMSYの推定値を採用すると、「組み合わせた漁業の組み合わせた持続可能な収穫量を25～50%以上過大評価する可能性があります。」とはいえ、選択性の欠如は、捕食者と被食者の両方を利用するため有益であり、注意深く管理すれば生態系の歪みを減らすのに役立ちます。漁業管理者と利害関係者を導くための新しい管理アプローチがすでに利用可能です。

彼ら自身の言葉で： すり身生産者によると、選択された持続可能性改善の障害

- 持続可能性の問題に関する企業レベルでの知識の欠如
- 持続可能性に対する消費者の懸念の欠如
- 持続可能性の問題に関する消費者の無知
- 価格の問題、持続可能なすり身は持続不可能なものよりも高価です

熱帯すり身漁業は、多種多様な漁業管理に固有の複雑さを超えて、通常、他のさまざまな持続可能性の課題に直面しています。これらには以下が含まれますが、これらに限定されません：

- 詳細なキャッチログを困難にする多様なキャッチ
- トレーサビリティを困難にする複雑なサプライチェーン
- 労働、公平性、地域社会の関与、およびその他の社会的問題。免許の回避や禁止された装備の使用から、場合によっては奴隷労働や強制労働の雇用に至るまで、幅広い違法行為の一因となっています
- 次のような重大な制限のある政府の管理システム
 - 在庫評価の頻度が低く、情報に基づいた管理上の意思決定のためのデータが不十分
 - 透明で説明責任のあるガバナンス構造の欠如
 - 責任と説明責任のある目的を持った漁業管理計画の不採用

- 科学的証拠に基づかず、漁業の発展中に漁船の数を制限し、「オープンアクセス」政策を支持
- 漁獲量と単位努力量当たりの漁獲量の減少の明確な証拠に対応する是正措置の欠如
- 違法、規制されていない、報告されていない漁業は、国内船と外国船の両方で十分に管理されていません

すり身の生産者は乱獲の影響を感じ始めており、すり身が「日没産業」であると懸念する人もいます。中国、インド、マレーシア、ベトナムの生産者を対象にした調査では、近年、次のことがわかりました：

- 魚の平均サイズは約 30%減少しました
- 水揚げ量は 50%も減少しました

乱獲が影響しているため、一部のすり身事業は生産性の低下と価格の上昇を無視し、代わりに他の場所での漁獲、小型魚の利用、新種の使用、養殖魚の代替を選択しています。このアプローチは、最初の漁業への被害を軽減するものではありません。それはまた、時間の経過とともに、すり身の供給の信頼性を低下させ、より高価にし、品質を低下させるサイクルを永続させます。さらに、それは魚とそれに依存する人々の利益のために良い管理を促進するのを助ける企業の力が失われることを意味します。

改善に対する政府と業界の関心

熱帯すり身漁業の全体的な持続可能性と社会的責任の展望は依然として困難ですが、熱帯すり身を生産している国々の間で効果的な管理の有望な例があります。特にタイは真のリーダーシップを発揮しています。地域内の管理改善の注目すべき兆候は次のとおりです：

- タイとマレーシアは、乱獲の兆候に対応して、限定的な入国体制を実施しています
- タイとインドは定期的かつ効果的な間隔で在庫評価を実施しています
- インドネシアは、その海域で違法に漁業を行っている外国船に対して強力な行動をとっています
- タイとベトナムは効果的なガバナンス構造に向けて前進し、インドネシアは進歩し始めました
- タイには明確な管理計画システムがあります
- タイ政府は、労働者の権利の問題に対処することを目的とした改革プロセスを開始し、長く、困難で、かなり遅れた移行期間を開始しました

彼ら自身の言葉で：すり身生産者によると、選択された持続可能性改善インセンティブ

- 調達を困難にする原材料の入手可能性の低下
- 持続可能性の問題に関する消費者の意識の高まり
- 加工業者に認証されていない原産地のすり身原料を拒否することを強いる小売流通の圧力

業界の中には、すり身の持続可能性のパフォーマンスを改善したり、市場ベースの介入を歓迎したりするための行動を起こしているところもあります。数人のすり身生産者をメンバーに数えているタイ冷凍食品協会は、[マリントラストの複数種パイロット](#)の下で初めて実施されたものを含め、FIPに参加しています。インドとベトナムの利害関係者も過去にすり身漁業 FIP を立ち上げました。19 のすり身シーフード製造会社の調査では、以下を含む市場ベースの改革に対する多数派の支持が見つかりました：

- 持続可能な製品に対する小売業者の需要の増加
- 持続可能なすり身原料の供給を増やすためのインセンティブ
- 消費者意識の取り組み

Roadmap for tropical surimi sustainability improvement

この概要には、熱帯すり身漁業の環境的および社会的パフォーマンスを改善するための具体的なガイダンスを提供する文書が付属しています。この「ロードマップ」は、改善に対する業界の関心に合わせて構築するように設計されており、このリソースを効果的に管理するために企業が実行できる特定のアクションを推奨しています。著者は、関心のある企業にロードマップを確認し、関連する推奨事項を実装するように促します。